

薬学教育に「社会人基礎力」

コアカリ10の資質と関連

マイナビ、福大薬学部

主体性や課題発見力、傾聴力といった地域社会で多様な人々と仕事をするために必要な社会人基礎力を身につけるための薬学教育が始まっている。人材紹介大手のマイナビは、薬学教育モデル・コア・カリキュラムで示された薬剤師に求められる基本的な資質・能力と社会人基礎力の関連性を示す研究成果を公表し、薬学生のための社会

人基礎力養成講座を開発した。大学の教育現場でも、福岡大学薬学部が低学年を対象とした薬学的プロジェクト学習「ふくやくプロジェクト」を通じて社会人基礎力の向上に取り組んだ結果、主体性や計画性、ストレスコントロール力といった項目が向上したことが確認されたという。

社会人基礎力について、経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていく上で必要な基礎的な力」と定義。前に踏み出す力として主体性や実行力、働きかけ力、疑問を持てて考え抜く力として課題発見力、計画力、チームで働く力として発信力、傾聴力、柔軟性、ストレスコントロール力などを挙げる。重要性を指摘している。コアカリで示されている10の資質が「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」であるとする。社会人基礎力は「この職業にも共通する土台になる力」と言える。薬剤師にも社会

から求められる役割や業務内容に変化が起きている。薬剤師資格を取得するだけでは、薬剤師個人のマイナードと能力を磨くことが必要とされるようになってきた。同社は、学生が社会人基礎力を測定できるアセスメントツールとして「MAT CHplus」を提供し、学生のキャリア形成を支援してきた。コアカリの10の資質と社会人基礎力の関連性に注目し、薬学生がどの程度共感するかの調査を実施した。昨年11月から今年5月にかけて、長崎大学と慶應義塾大学の薬学部4～5年生

2200人を対象に調査を行ったところ、10の資質と社会人基礎力の関連性の項目の中で、薬学生からの共感度が90%を超えた項目が34項目中27項目と約8割に上った。特に10の資質の「コミュニケーション能力」と社会人基礎力の「傾聴力」が関連するという共感度は100%となり、薬学生から高い共感度が得られたという。

教育方法にPBL有効

と考察し、「社会人基礎力を高めることは10の資質を高めることにつながる」と結論づけた。調査結果を踏まえ、薬学生を対象とした社会人基礎

力講座を開発した。まず薬学に對し、MAT CHplusを用いて自分の社会人基礎力を測定してもらい、その結果から自己分析を促す。興味部分について

の12項目中、▽主体性▽働きかけ力▽実行力▽計画力▽創造力▽発信力▽ストレスコントロール力▽の7項目で数値が向上した。中でもプロベンシス

一方、福大薬学部は2023年から低学年の希望者を対象とした「ふくやくプロジェクト」を開講した。キャリア形成のために必要と意識、態度、能力を育てることが目的で、リアルな社会課題を抽出し、チームでコミュニケーションを深めながら調査やデータ分析、他者への理解や共感などを主体的に高めるプロジェクトベースラーニング(PBL)を取り入れている。

1～2年次を対象とした第1期では、教員が初歩的な分析法やビジネスマナー、プレゼンテーションセミナーなどを講義したほか、外部講師やOBによる講義や講演により、身につけるべき能力や薬剤師とし

て活躍する様々なフィールドを学生に周知した。講席の学生との1対1、スモールグループディスカッションを取り入れた完全参加型授業を特徴としている。

また、参加学生をチームに分け、各班が「薬局が地域社会に貢献する方法」をテーマとしたプロジェクトに取り組み。第1期では薬剤師会や薬局を訪問し、抽出した課題が

らお薬手帳の改善・普及させるイベント開催、薬局の待ち時間改善など解決策に繋がるアイデアを考案した。第2期はそのアイデアをプロジェクトとして形にしている。

福大薬学部は、同プロジェクトが社会人基礎力を高める影響を検証するため、23年度に薬学部に入学生した246人のうちMAT CHplusを受検した146人について23年5月と24年5月を比べてところ、参加学生では社会人基礎力

福大薬学部は「PBLは多職種連携が重視される医療において、社会人基礎力を高める教育方法として有効」と手応えを示す。PBLで向上しなかった課題発見力、傾聴力、柔軟性、情

況把握力、規律性の項目が向上するためのPBLの方法を検討する必要性も指摘している。